〝反合理化の闘い〟へ

九州炭婦協定期大会　運動方針を確立

去月二十六日～二十七日に福岡で第六回九州炭婦協定期大会が開かれ、新年度の運動方針を確立するとともに、新しい役員を選出した。

運動方針の柱をなすものとしては第一に、九州炭婦協に未加入のところの加入を、当該組合の協力を得て促進する。

第二に、労仂強化や災害につながる合理化攻撃に対しては、あくまで抵抗してゆく。

第三に、子ども・物価・社会保障・平和などに関する問題を真剣に取り組む――などである。

また役員としては、次の人々が選ばれた。（敬称略）

会　長　湯上　ゆき　高島
事務局長　久保ときえ　三池
会計監査　吉田ゆきえ　立川
会計監査　田中　静江　三池

九州炭婦協の定期大会とあれば例年、九つの支部から代表が集まっていたのが、今回は第四次石炭政策によって目尾（福岡）、柞島（佐賀）、神原（長崎）が影を消したため、いまや高島、飯野、立川、高松、それに三池と五支部にへってしまった。

なお前日に塚元元三池労組書記長の「安保と組織問題」と題する話があったが、安保が自分たちの日常生活の中にどのように忍びこんでいるかを学習することができ、非常に有意義だった。

水俣病患者を見舞って感じたこと

主婦会　森川くみ子

三池のCO闘争を中心とした生命を守る闘いが、いまでは合理化に反対し、労仂災害・職業病から仂く者の生命と健康を守る、全産業・全国的な労仂者の闘いに発展しはじめておりますが、それに歩調を合わせて全国各地の地域住民の、公害から生命と健康を守る闘いも広がりはじめております。

その一つが水俣病患者を守る闘いで、それもいまでは一漁民だけの問題でなく、市民ぐるみの公害から生命と健康を守る闘いに広がる勢いを見せはじめております。

去る一日、私は熊本県総評主婦の会の一員として、水俣のリハビリテイション・センターを訪れ、水俣病患者の皆さんを激励致しました。

リハビリテイション・センターは湯の児海岸沿いの、空気が新鮮で、風光明眉なところに建てられ、運動機能障害による四肢不自由者のために機能回復訓練を行なう、わが国でも指折りの施設です。

各室は、人として生きるための機能を失なった人の回復訓練に役立つ親切な設備が、されていました。私も九大、熊大、久留米大学の付属病院にCO患者のみなさんを見舞って参りましたが、ここほど親切でゆきとどいた施設のしてある処を見たおぼえはありません。CO患者のみなさんが、ただぼくぜんと寝ていられるところを見て、これまで私は「ああする以外手のほどこしようがないのであろう」と思っておりましたが水俣のリハビリテイション・センターを見てまったく驚いてしまいました。

三井独占資本にせよ、政府にせよ、仂く者をあのようなむごい廃人にしてしまった責任を感ずるなら、せめて水俣のリハビリテイション・センターにさらに優る施設を作ってでも、患者のみなさんの機能回復訓練にもっと力を尽すべきだとつくづく思ったものでした。水俣のリハビリテイション・センターを見ながらしみじみと三井独占資本の悪らつさを思い知らされ、あらためて憤りを深くしたものです。

リハビリテイション・センターには胎児性水俣病患者のお子さんや、同じ病気で仂き盛りのわが息子を奪われた上に、自分も水俣病のため寝たきりというお年寄りの方もおいでになりました。

思えばどの患者さんも善良な日本国民なのに、たれの手でこの人々は人間として人並みに生きる権利を奪われたのか。なぜこのようにみじめな一生を送らなければならないのか。

いま水俣には、数知れない水俣病患者がいられると聞きます。すべては新チッソの水俣工場から流れ出ていた廃液中に含まれていた水銀によって、廃人にされた人々なのです。お見舞していて、ただぼくぜんと放置されている宮嶋さん・

全国にますます広がる労仂災害、職業病、公害などで苦しんでいられる人々と手を取り合い、闘いの火を強大にしてゆきながら、あくまでCO患者を守り、生命と健康を守る反合理化闘争を、さらに粘り強く闘わなければならないことを肝に銘じて感じたしだいです。

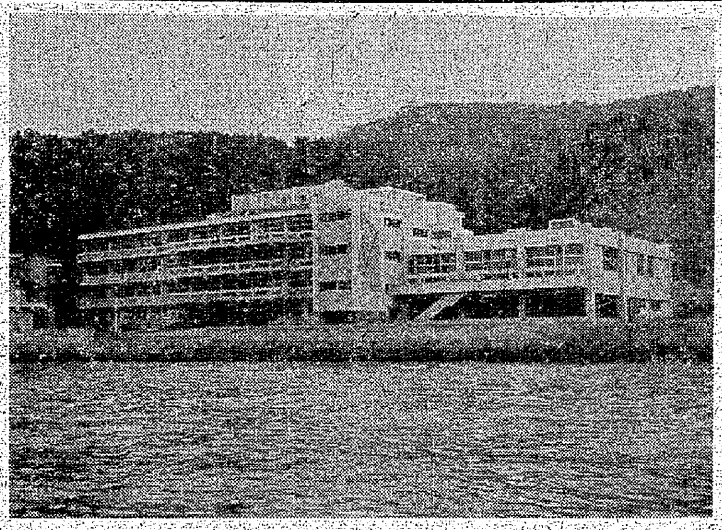
みなさん、長期抵抗路線に学びながら、生活にくじけずがんばりましょう。

豆ニュース

警視庁の〝安保非常体制〟交番には四十六才以上の警官七〇年はドロボウ天国か。

×

自民党、バーのホステス集めて安保学習会。「ねえ、自動延長で一杯いかが」



湯の児にあるリハビリテイションセンターの全景。中の治療・回復訓練施設はさらに至れり尽せりである。

重大災害が33万件も

生命と健康守る　仏労仂者の闘い

フランスの労仂者も生命と健康を守るたたかいにたちあがっています。とりわけ、「合理化」・労仂強化のきびしい自動車産業では労仂者の怒りは爆発点に達しています。【KNA】

五月闘争のなかで

米資系シトロエン自動車工場のある吹きつけ塗装職場では、昨年まで労仂組合がありませんでした。塗料の霧がたちこめるなかで仂きながら、労仂者はわずかの息ぬきをすることも許されません。六五年までは毎月一回あったX線検査と血液検査も二、三カ月に一回に減らされ、労仂者の一人は塗料の中毒で重病になりました。六八年の五月ゼネストのなかで、この職場の労仂者ははじめて労仂総同盟（CGT）に加入し、三人の職場代表を選び労仂条件・職場環境の改善に取り組みました。現在では、換気装置の改善、防毒用の特殊マスク、保護具の支給をかちとり、一日一定回数の息ぬき休憩を認めさせています。

スポーツもできぬ

労仂総同盟機関誌『労仂生活』編集部のアンケート調査では、他の自動車工場でも労仂者の健康破壊は深刻。国営ルノー工場で五分の一秒単位で一時間百二十個のエンジンを生産しているある労仂者は「神経の疲労でイライラ、仲間ゲンカもしばしばで、病欠が多く差し引かれる賃金は一人平均三週間で九十三フラン（約六千九百円）にもなる」と訴えています。プジョー工場の青年労仂者は「工場から三キロの宿舎に二十才前後の仲間四百人が暮らしているが、施設はあってもだれもバレーボールやサッカーをやらない。疲労でできないのだ」「職場のプレスの騒音は百から百二十デシベル。四、五年で難聴になる」と指摘しています。

生命守るたたかいを

フランスの全産業の操業停止を招いた労仂災害件数は、一九五七年の百九万件から、六六年には三百四十万件と三倍以上に増加しました。うち死亡、廃疾、不具などをともなう重大災害は七万八千件から三十三万件にふえています。政府・資本家側の安全対策・労仂者の健康管理は申しわけていど。安全・健康管理を監督する労仂検査官、監督官は一千百万人の全フランスの賃金労仂者に対して、わずか五百五十人しかいません。地域の社会福祉委員会に直属し、労仂者の安全・健康管理に協力する技術委員会は十年前の七十一から五十八に減らされています。『労仂生活』誌は「生命と健康は政府・資本家まかせにはできない。ただ労仂者の闘争だけがそれを守るのだ」と訴えています。

感寸

万訓　山田勝

私たち万訓CO患者は、七月二十九日付で坑外名儀になり、十一分会編入と本部CO担当部長の程氏より情宣があり、苦しかった大牟田労災での闘いが走馬灯のように私の頭をかけ回った。

職場復帰をしてもCO後遺症と手が切れるわけではなく、私たちが生きている限りCOのレッテルと後遺症に悩まされ苦しむだろう。私たちは生命と幸せな家庭を築くためにも、反合理化、生命を守る闘いの「生き証人」となり闘わねばならない。黙っておれば本当に殺される。

私たちが入院加療中にも、何人もの人が合理化というボタの下じきとなり、三池労組、新労組の区別なく犠牲にされた。

私たちは亡くなられたCO患者の仲間の葬儀に参列して、ただ「可哀そう」だけでは済まされない。明日は自分の番になるかも知れない。

一千万円の宝クジなら結構だが三井のそれはたとえ生命とひきかえても一千万円には程遠い。笑い話しにもならない三井の非情さ。

集会や抗議行動などに「用件があるので……」とか、「内証があるので失礼するヨ」などといってこんな小さな幸せを求めるより、人間として当然得られる大きな幸せをつかみとるためにこそ、みんなの力をだし合おう。

三川十一分会新聞〝いのち〟「第四号」から

この差別――許されるものか？

映画『橋のない川』を見よう

▼…「この映画〝橋のない川〟に橋をかけよう。川は差別である。人間が人間として大切にされないことを差別とすれば、差別は無数である。その中で一番しんどく、歴史的にも社会的にも最も根の深いもの、それが部落差別であります」――福岡同和研究会の林会長はこういっています。

こんど大牟田の太陽館でいよいよ上映することになりました映画〝橋のない川〟を成功させるために、大地評・荒尾地評・福教組大牟田支部・高教組大牟田支部・荒尾教組・部落解放同盟が集まって〝上映推進実行委員会〟をつくり努力をつづけています。

三池労組の内部で、すでに先日行なわれました試写会で同映画を見た人は、異口同音に絶賛しております。ぜひ見ましょう。

▼…大人は当日売り四百五十円を三百円の前売券で、また高校生は当日売り二百五十円を二百円で小・中学生は二百円を百五十円でそれぞれ見られます。入場券は、各指導部でおわかりしていますから、どしどしご利用頂きたく思います。

〝橋のない川〟の宣伝ポスター

水俣病を告発する劇が誕生

こんど劇団泉座が、水俣病問題を訴えた『告発――水俣病事件』（高橋治作・演出）を東京で上演しました。

熊本県の波静かな漁村水俣市の海岸で奇病が発生したのは、昭和三十八年の暮れ。つぎつぎに倒れる漁民、原因が自社にあることを知りながら漁民をペテンにかける会社。水俣病の元凶へのするどい「告発」となっています。